

共同参画

男女がともに活躍できる社会へ



内閣府
男女共同
参画局

8

"Kyodo-sankaku"
Number 191
August 2025
Japan Cabinet Office



特集1 スペシャルインタビュー

男女共同参画推進連携会議座談会 日本の男女共同参画推進：現状と今後の打ち手

自分の意思で人生を選択する

私はかつて、東京オリンピックで金メダルを獲得しました。目標に向かって努力を重ね、頂点に立てたことはかけがえのない経験です。しかし、その後、私は競技生活を引退し、思い切って「カエルの研究」という、まったく異なる道を歩み始めました。スポーツの世界から理系の研究という進路転換に対して、「もったいない」「なぜそんなことを？」という反応も多くありました。

しかし、私にとってはどちらも同じように真剣に向き合ってきた分野であり、それぞれの時期において自分の意思で選び取った選択肢でした。私のように、スポーツから理系研究へとキャリアを転換する女性は決して多くはありません。理系分野ではいまだに女性比率が低く、「らしくない」「向いていない」といった無意識の偏見が、挑戦の壁となっている場面も少なくありません。

けれども、それは本当に「向いていない」のでしょうか？自分の内なる好奇心や情熱に正直になることが、自分の人生を豊かにするものであると私は信じています。一方で、自分らしい人生を選び、それを実行に移すことは、簡単ようでいて、社会的・心理的な障壁も存在します。だからこそ、まずは私が、誰かが新しい一歩を踏み出すときに、その背中を押せる存在になりたいと考えています。自分の選択を肯定し合える空気のなかでこそ、多様な生き方が実現されていくはずです。

性別や既成概念にとらわれず、自らの意思で人生の進路を選び、それに挑戦できる社会。そのような社会の実現が、これからの時代にはますます重要になるのではないのでしょうか。性別にかかわらず、一人ひとりが自由に人生を選択することができる環境こそが、持続可能な社会の原動力になると思います。

スポーツの世界も研究の世界も、まだまだ課題はありますが、少しずつ変わり始めているとも感じています。私自身の経験が、次の世代の誰かにとって、小さなヒントや励ましになることを願いながら、今後も活動を頑張っていきます。



入江 聖奈
Irie Sena

東京オリンピックボクシング女子
フェザー級金メダリスト

未来ウーマン応援大使

"Kyodo-sankaku"

共同参画

8

August 2025

Number 191

目次

Contents



Special Feature

特集1 Page.2

スペシャルインタビュー

男女共同参画推進連携会議座談会

日本の男女共同参画推進：現状と今後の打ち手

特集2 Page.5

男女共同参画週間における表彰

Topics

トピックス1 Page.11

第30回 あいち国際女性映画祭2025の開催

News & Information

ニュース&インフォメーション Page.12

理系で広がる私の未来2025 動画公開セミナー

ほか

男女共同参画推進連携会議座談会

日本の男女共同参画推進：現状と今後の打ち手

内閣府男女共同参画局総務課

男女共同参画社会づくりに関し、広く各界各層との情報・意見交換や必要な連携を図り、国民的な取組を推進している男女共同参画推進連携会議の有識者議員がアキレス議長の進行により、多様な視点から日本における今後の男女共同参画推進を展望する意見交換を行いました。



登壇者：(写真左から)

- ・只松美智子氏
(株式会社Think Impacts代表取締役)
- ・勝木敦志氏
(アサヒグループホールディングス株式会社 取締役 兼 代表執行役社長 Group CEO)
- ・アキレス美知子氏
(議長／三井住友信託銀行株式会社取締役監査等委員)
- ・山田久氏(法政大学教授)

アキレス議長：皆さま、本日はご多忙の中お集まりいただきありがとうございます。ご承知のとおり、日本で女性活躍推進法が施行されて約10年が経過しました。制度面では進展が見られますが、2025年6月に発表された世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数では、日本は148カ国中118位と、残念ながら前年と同じ順位にとどまっています。また、米国ではDEI(ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン)への逆風が報じられており、日本企業も今後、海外拠点や取引でその影響を受ける可能性があります。本日は、こうした現状を踏まえつつ、皆さまのお立場から今気になっていること、

問題意識、そして今後の打ち手について自由に語っていただきたいと思います。まず、只松さんからお願いします。

只松氏：ありがとうございます。私は最近、改めて「ビジネスと人権」対する企業の対応に注目しています。2022年に経済産業省がガイドライン(「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」)を発表しましたが、昨今の企業における不祥事などを踏まえると、その重要性がまだ十分認識されているとは言いがたいと感じています。ビジネスと人権というと、サプライチェーンの労働環境などに注目が集まりがちですが、本来は自社の従業員や直接的な取引先も含めて考えるべきです。「これまでは問題にならなかった」という過去の慣習にとらわれず、企業としての人権に対する明確な姿勢を打ち出し、トップダウンで対応していくことが求められると思います。



勝木氏：人権は重要なキーワードですね。私は今年6月に「Tokyo Pride 2025 Pride Parade」に参加しました。LGBTQ+をはじめとするセクシュアル・マイノリティの社会認知を広めるために世界各地で開催されているイベントです

が、今年は60団体、約1万5000人が行進し、沿道やイベントにも2万人以上が集まる盛況ぶりでした。ニューヨークでは一部企業スポンサーが撤退するなどの動きもあるようですが、“横並び意識”が強い日本ではこれをポジティブに活かせば、企業の取組が一気に加速する可能性もあると感じました。希望が持てる体験でしたね。



山田氏：私は大学教員になって2年になりますが、今年から学部生も担当するようになり、20歳前後の学生と話す機会が増えました。その中で、若い人の男女観が我々の世代とは大きく異なることを強く感じています。数年前、内閣府の調査で「若年層ほど“無意識のバイアス”が強い」と指摘されていましたが、実際には社会に出ることで影響され、変化していく部分があるのだと思います。そして近年私が最も関心を持っているのは、「男性の働き方や生き方の改革」です。労働市場では深刻な人手不足が続いていますが、男性の労働時間を長くして解決しようとする、家庭内の性別役割分担が加速して逆に問題が深まってしまう。むしろ男性の労働時間を短くし、すべての人が制約のある中でも働ける環境を整えていくことが、真の解決につながるのではと考えています。



アキレス議長：ありがとうございます。お三方からビジネスと人権、企業からみた機会、若年層の意識、男性の働き方

など、重要な視点をいただきました。次に、連携会議の取組についてお聞きます。賃金格差チームの活動状況はいかがでしょうか。



只松氏：はい。私たちは大企業、中小企業、業界団体、大学関係者などへのヒアリングを重ね、格差の要因分析を進めてきました。大企業においては、いわゆる“垂直分離”——つまり職位によるジェンダーの偏りが主な要因で、勤続年数や職位などの条件が同じであれば、男女間の賃金差はほとんど解消することが分かりました。したがって、大企業の場合は、管理職や役員層に女性を登用していくことが重要です。そのための有効な施策の一つとして、ライフイベントを考慮しつつ、時間をかけてでも上げられる「多様なキャリアパス」の設計が挙げられます。一方、中小企業は規模や文化が多様であるため、画一的な施策は難しいのですが、業界団体が就業規則のひな形提供や研修を行うなどの中小企業への支援はとても有効な取組だと感じました。

アキレス議長：ありがとうございます。勝木さんの会社は、男女間賃金格差の是正や女性の登用を含め、様々な取組を進めていらっしゃいますよね。

勝木氏：はい。当社では取締役13人中6人が女性、CEOの諮問答申機関Executive Committeeメンバー11人中3人が女性、そのうち2人は外国籍です。制度整備や環境構築は進んできたと思いますが、さらに進めるには「なぜ？」を繰り返す対話が不可欠だと痛感しています。管理職登用の場面で「大変そうだから」と女性が辞退すると、「では次の人を」となりがちですが、「なぜ大変と感じるのか？」を掘り下げることによって、解決策が見えてきます。人事評価も従来の実績偏重から、ポテンシャルを重視した評価制度に移行しつつあります。

アキレス議長：真因を見つけ出し、解決策を講じるとともに、人事評価制度の変革を行なうと、結果に繋がりがやすくなりますね。

山田氏：中小企業の話で言えば、人手不足が深刻な中で、女性の活躍が企業存続に直結するという事情から、積極的に女性登用を進めてきた中小企業も少なくありません。最終的にはトップの意識次第。そこに合理性があると信じて取り組むことで、変化は起きると感じます。

アキレス議長：トップの意識は大中小問わず、どの企業でも重要ですね。ご指摘の通り、人口減少が進む日本では女性登用は必然です。若年層の調査結果についてもご紹介いただけますか。

山田氏：はい。18歳から24歳を対象に家事・育児や世帯収入の分担についてアンケートを取りました。「家事・育児」「世帯収入」とともに5対5が最も多く、男女平等の意識がかなり高いことが分かりました。ただし、会社に入った後の世代では、女性のほうが「収入は男性が多め」「家事は女性が多め」と答える傾向が強まり、現実適応が影響していると思われます。また、影響を受ける情報源として、男性はアニメや漫画、都市部の女性はSNS、有名人、地方では学校の先生の影響が相対的に強いという傾向も見えました。これは今後の打ち手を考える上で興味深いデータです。

アキレス議長：意識に影響を与える情報源がわかると打ち手も見えてきますね。特に地方に関しては意識や慣習にギャップがあると言われますが、只松さん、そのあたりいかがでしょうか。

只松氏：地方のジェンダー平等を進めるためには、自治体、大学、商工会議所、金融機関など、複数のステークホルダーが連携する「コレクティブ・インパクト・アプローチ」が有効だと考えています。連携会議としても、そうした取組を広げていきたいです。

勝木氏：海外の状況と比較すると、当社では、女性経営層の登用について、日本は他の地域よりも課題が残っており、さらなる取組が求められています。例えばイタリアでは、STEM教育の提供や育児制度の整備により、2年で女性管理職比率を27%から33%に引き上げたという事例があります。チェコでは工場の更衣室・トイレの整備といったファシ

リティ改善が、女性の定着率向上に大きく寄与していました。これらの事例を参考に、日本も地道に事実を積み上げていくことが必要だと感じています。同時に、レポートを公表するなど、取組を可視化する努力も続けていきたいと思っています。

アキレス議長：事実の積み上げと可視化、まさにその通りですね。日本では進んでいる方だと思っても、海外との比較ではまだギャップが大きいのも事実です。また、せっかく抜擢された女性が「能力ではなく女性だからでは?」と見られてしまうことへの懸念も聞かれます。この点についてはいかがですか。

勝木氏：私は「女性である」ということ自体が一つの能力だと捉えています。特に我々のような消費財を扱う企業では顧客の半数が女性であり、女性の視点を持つことは大きな価値です。「下駄を履かせる」という表現がありますが、むしろ今まで履いていたのは男性のほうかもしれません。

山田氏：そもそも昇進は「社内ですること」だけに価値を置きすぎているのではと思います。他の会社に移る、自分で事業をするという選択肢もある。多様なキャリアパスが広がり、もっとフラットに考える社会になってほしいですね。

只松氏：実績と能力で選んだ結果、役職者の男女比が半々になるのが理想でしょう。現状がそこに至っていないのであれば、何かしらの不平等が存在すると考えるべきです。したがって一定期間はアファーマティブ・アクションのような積極的施策も必要だと考えます。

アキレス議長：皆さまの明快なご意見、取組や調査から、多くの示唆をいただきました。連携会議では今後も実効的な打ち手を模索し、社会全体の変化につなげていけたらと思います。本日はありがとうございました。
一同：ありがとうございました。

構成/宮本恵理子 撮影/竹井俊晴

実施日：2025年6月13日

男女共同参画週間における表彰

内閣府男女共同参画局総務課

男女共同参画社会基本法の目的及び基本理念に対する国民の理解を深めることを目的として、毎年6月23日から29日までの1週間、「男女共同参画週間」を実施しています。

週間中の6月27日（金）に「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」、「男女共同参画週間キャッチフレーズ・女性のチャレンジ賞表彰式」を実施しました。

男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰

多年にわたり、男女共同参画社会に向けた気運の醸成等に功績のあった方や、各分野において実践的な活動を積み重ね、男女共同参画の推進に貢献してきた方などに内閣総理大臣から表彰するもので、今年度は11名に贈られました。

残念ながら柄澤康喜氏はご欠席となりましたが、10名の受賞者にご出席いただきました。受賞者を代表して當山君子さんに石破総理から表彰状が授与されました。



表彰状授与の様子

※受賞者の情報については、7、8ページで紹介しています。

男女共同参画週間キャッチフレーズ・女性のチャレンジ賞表彰式

●開会挨拶

はじめに、三原内閣府特命担当大臣（男女共同参画）・女性活躍担当大臣は、冒頭の挨拶で、自分らしくチャレンジしている女性を応援する気運を高めるため、新たに任命した「未来ウーマン応援大使」の入江聖奈氏を表彰式に迎えることとした旨を紹介し、受賞者に対し益々の活躍を祈念する旨を述べ、祝意を表しました。



挨拶をする三原大臣

●「未来ウーマン応援大使」挨拶

オリンピックにおいて金メダルを獲得後は、大学院に進学しカエルの研究をしており、スポーツから理系の道へ進む中では困難なことが沢山あったが、「自身の好きなことには真剣に向き合いたい」との思いがこれまでの自分を支えてきたと、自身の経験を紹介しました。

最後に、未来ウーマン応援大使の活動を通じて、自分の挑戦する姿がロールモデルになるよう、カエルの研究に邁進していきたいと述べました。



挨拶をする入江大使

●男女共同参画週間キャッチフレーズ表彰

最優秀賞の小田多恵さん、優秀賞の阿部一騎さんのお二人に記念品のトロフィーを授与し、それぞれのキャッチフレーズに込められた思いをお話いただきました。なお、優秀賞の山野大輔さんは残念ながらご欠席でした。



男女共同参画週間キャッチフレーズ表彰
(左から阿部さん、入江大使、三原大臣、小田さん)

【最優秀作品】

誰でも、どこでも、自分らしく

小田 多恵さん (福岡県)

【優秀作品】

人が育つ、絆が広がる、未来が変わる

阿部 一騎さん (新潟県)

育成しよう 貴重な人材 醸成しよう 共同参画

山野 大輔さん (大阪府)

●女性のチャレンジ賞表彰

女性のチャレンジ賞 (個人4名)、女性のチャレンジ支援賞 (団体1先)、女性のチャレンジ賞特別部門賞 (テーマ: 男女共同参画の視点に立った防災・復興、個人2名) が決定され、表彰状と記念品のトロフィーを授与しました。



女性のチャレンジ賞表彰

※受賞者の情報については、9、10ページで紹介しています。

【関連リンク】

男女共同参画週間について

URL <https://www.gender.go.jp/public/week/index.html>



令和7年度男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞者

URL <https://www.gender.go.jp/public/commendation/souri/meibo-r07.html>



表彰式の様子 (首相官邸ホームページ)

URL <https://www.kantei.go.jp/jp/103/actions/202506/27hyoushou.html>



令和7年度「男女共同参画週間」キャッチフレーズについて

URL <https://www.gender.go.jp/public/week/catch.html>



令和7年度女性のチャレンジ賞受賞者名簿

URL https://www.gender.go.jp/public/commendation/women_challenge/katudoug-r07.html



男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰受賞者

多年にわたり、男女共同参画社会に向けた気運の醸成等に功績のあった方や、各分野において実践的な活動を積み重ね、男女共同参画の推進に貢献してきた方などに内閣総理大臣から表彰するものです。今年度は下記の11名に贈られました。(50音順、敬称略)



石澤 恵美子 (いしざわ えみこ) 男女共同参画社会をすすめる黒石ハーモニーの会 会長

推薦者：青森県

「男女共同参画社会をすすめる黒石ハーモニーの会」の設立当時から会長を務め、黒石市男女共同参画審議会委員も務めた。黒石市の男女共同参画推進のトップランナーとして長年にわたり取り組み、市の範囲を超えて津軽地域の広域的な活動に携わっている。



柄澤 康喜 (からさわ やすよし) 三井住友海上火災保険株式会社 常任顧問

推薦者：内閣府

日本経団連ダイバーシティ推進委員長を長年務め、ダイバーシティ&インクルージョンを経済界から推し進め、企業の意思決定過程に女性の視点を生かす取組に尽力した。内閣府「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」の活動に賛同し、公平性を強く意識した取組を推進した。



小林 鈴代 (こばやし すずよ) 岡山県男女共同参画推進センター 運営委員会副委員長

推薦者：岡山県

長きにわたり豊富な知見と卓越した行動力により、男女共同参画に係るさまざまな市民団体を結成し、リーダーとしてイベントの企画・運営や県内各地での啓発講座等を積極的に行うとともに、県や市の審議会等の委員として基本計画策定等に尽力するなど行政にも多大な貢献をしている。



笹谷 春美 (ささに はるみ) 公益財団法人 北海道女性協会理事長

推薦者：北海道

北海道教育大学教授として知見を活かして男女共同参画に関する講演を各地で実施するほか、北海道立女性プラザ館長として全道の男女平等参画社会の推進に貢献している。北海道、札幌市の女性関係会議の委員としても審議の中心となって指導的な役割を果たした。



當山 君子 (とうやま きみこ) 沖縄県名誉生活指導士

推薦者：沖縄県

約半世紀にわたり生活改善活動に参画し、農村女性リーダーとして農村女性の資質向上及び地域活性化支援の取組に尽力した。沖縄県農山漁村生活研究会会長、恩納村議会議員等を歴任し、沖縄県農村における男女共同参画の社会づくりや女性活躍推進に大きく貢献した。



中村 薫（なかむら かおる） 元・全国人権擁護委員連合会 男女共同参画委員会委員長
推薦者：法務省

人権教育担当の元教師の経験を生かして人権擁護活動を行い、人権擁護委員組織体において男女共同参画委員長を務めるなど中心的役割を担っている。女性の人権に関する専門相談電話「女性の人権ホットライン」強化週間においては自ら相談対応を行い周知・広報にも尽力した。



西山 香代子（にしやま かよこ） やまぐちネットワークエコー代表
推薦者：山口県

男女共同参画を推進する民間団体「やまぐちネットワークエコー」代表、（公財）山口きらめき財団評議員、山口県女性団体連絡協議会副会長、同会長等を歴任し、数多くの県民学習会開催や、リーダー育成等を通じて、男女共同参画社会の形成に寄与した。



根本 由紀子（ねもと ゆきこ） かつの土地改良区 事務局長 推薦者：秋田県

男性が多い土地改良の現場において女性活躍の先駆者として積極的に活動。圃場整備の現場で指揮を執る工事担当者として抜擢され「あきた水土里ネット女性の会」の初代会長を務めたほか、「全国水土里ネット女性の会」の会長に就任し、土地改良区への女性の参画拡大に尽力した。



福島 有佳子（ふくしま ゆかこ） 川村義肢株式会社工房アルテ 主任技師
推薦者：大阪府

障がいや事故、病気等で失った身体の一部を外科的手術なしにリアルに復元する「人工ボディ」を開発。高い技術と一人ひとりに寄り添う心のサポートの両輪で社会復帰を支援するとともに、後進の育成、医療分野との連携、講演活動、保護司活動等、ますます活躍の場を広げている。



宮川 昌江（みやかわ まさえ） ダイワ通信株式会社 社外監査役 推薦者：石川県

金沢商工会議所女性会初代会長に就任。起業を目指す女性の支援として実践的なセミナー等を開催し、女性経営者の資質向上に貢献した。さらには、金沢ゾンタクラブの役員として女性のネットワーク構築に尽力し、女性経営者の先駆者として礎を築いた。



安永 牧生（やすなが まきお） 佐賀県医療センター好生館 産婦人科部長（婦人科）
推薦者：佐賀県

佐賀県での性暴力被害者支援に取り組むにあたり設置された「性暴力被害者急性期対応及び回復期・養生期支援体制整備専門部会」のメンバーとして携わり、医療行為を伴う急性期支援を24時間体制で実施する「性暴力救護センターさが さがmirai」の設立に尽力した。

女性のチャレンジ賞受賞者

起業、NPO法人での活動、地域活動等にチャレンジしている女性個人、女性団体・グループ及びそのようなチャレンジを支援する個人、団体・グループを内閣府特命担当大臣(男女共同参画担当)から表彰するものです。

〈女性のチャレンジ賞〉 受賞者 4名

五十音順、敬称略

五十嵐 美樹 (いがらし みき) 東京都市大学 准教授

推薦者：一般



環境や性別に関係なく科学に触れるきっかけを創ることを掲げ、身近なエネルギー問題やSDGsをテーマに、得意のダンスを取り入れたオリジナルコンテンツを開発し、子ども達に科学の面白さに触れるきっかけづくりのために全国各地でサイエンスショーを開催している。また、全国各地の中学校・高校での理系女子キャリアイベント等で講師を務めるなど、次代を担う世代への科学教育の普及とジェンダー平等推進の両面でも貢献し、現在も活躍の場を広げている。



桑井 亜乃 (くわい あの) アルカス熊谷 ラグビーレフリー

推薦者：埼玉県



ラグビー界では男女含めて世界で初めて、選手(リオ2016)とレフリー(パリ2024)の両方でオリンピックに出場した。男子15人制ラグビーで国内最高峰の舞台であるリーグワン2024-25シーズンでは、前身のトップリーグ時代を含め女性で初めてレフリーとして選出されている。レフリーに転じて以降も、ハイレベルなトレーニングや、海外留学でレフリー技術を磨くなど研鑽に努め、新たな道を切り開き、挑戦を続けている。



甲賀 かをり (こうが かをり) 千葉大学大学院医学研究院産婦人科学 教授

推薦者：千葉大学



産婦人科医として多くの手術や外来治療に従事する傍ら、子宮内膜症をはじめとする月経関連疾患を専門に、女性の健康に関する知識普及については男女共同参画を目指し、2012年に日本子宮内膜症啓発会議を設立し、副理事長として、一般市民への疾患啓発や政策提言、企業・自治体と連携した活動を展開した。外科系分野においても、腹腔鏡・ロボット手術の普及・啓発、若手医師の育成、新規技術開発に尽力し、女性医師のリーダーとして活躍している。

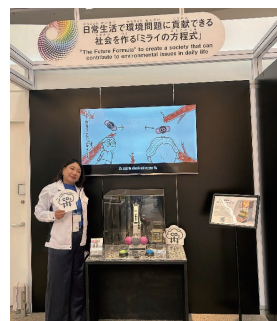


西原 麻友子 (にしはら まゆこ) 株式会社ベホマル 代表取締役

推薦者：滋賀県



研究職として15年間企業にて勤務した後、自ら求める「美しい地球を守りたい」という夢の実現のため、自宅の一角で一人で起業し研究に着手した。バイオマスCO₂吸収剤の研究論文から、プラスチックの製造への応用を考え、立命館大学と共同研究を開始。その後、立命館大学BKCインキュベータに入居し本格的に研究開発を行い、使うだけで大気中の二酸化炭素を吸収するプラスチックを開発した。現在は、実用化および商品化に向けてさらに研究を進めている。



〈女性のチャレンジ支援賞〉 受賞団体1先

一般社団法人CWAJ (カレッジ・ウィメンズ・アソシエーション・オブ・ジャパン) 会長 ハイディ・ズコスキー・スウィートナム
推薦者：一般



「女性が女性を支える」という理念のもと、創設以来約900名の学生に奨学金を授与してきた。現代版画展は、すぐれた日本の現代版画を展示・販売して版画の魅力を発信しており、芸術界でも有数の版画展となり、若手の育成に寄与している。この版画展の純益は奨学金・教育プログラム等を資金面で支えている。また、視覚障害者・外国人留学生に対する教育・文化交流プログラム等も提供し、長きにわたり女性の社会進出を支援し続けている。



〈女性のチャレンジ賞特別部門賞「男女共同参画の視点に立った防災・復興」〉 受賞者2名

五十音順、敬称略

杉本 めぐみ (すぎもと めぐみ) 大阪大学大学院人間科学研究科 准教授

推薦者：大阪大学



2004年インド洋津波の復興と防災支援の専門家として在インドネシア日本国大使館や日赤等で活動し、その後20年にわたって国内外の災害支援や災害研究や防災教育に従事。前職の九州大学では女子高校生の夏期理系研究インターンシップ制度「QURIES (キューリーズ) プログラム」の創設等、女性支援や後身の育成にも尽力。過去の南海トラフ地震から着想し、インドネシアに津波伝承碑85基の建設など学際的な研究アプローチだけでなく、国内外の自然災害の現場で女性支援の実務も行う。



根上 昌子 (ねがみ まさこ) ねがみ みらいクリニック 院長

推薦者：石川県



令和6年能登半島地震の発災翌日から、七尾市にある自身のクリニックを休憩所として開放し、被災した女性や子どもを支援したほか、避難所においてチラシや笛付き防犯ブザーの配布による性暴力被害防止の啓もう活動を行い、女性視点からの避難所運営の支援に尽力した。また、民間団体や有識者を巻き込んだプロジェクトチームを立ち上げ、行政機関とも連携し、被災地で性暴力を受けた際の被害者相談や緊急避妊薬をデリバリーする体制とネットワークを構築し、女性の安心・安全確保に大きく寄与した。



第30回 あいち国際女性映画祭2025の開催

いよいよ第30回！世界各国・地域の女性監督による作品、女性に注目した作品を集めた、国内唯一の国際女性映画祭を開催します。

30回目を迎える今回は、世界初公開、日本初公開の作品や国内外のゲストによるトークイベントを増やし、これまで以上に思い出に残る貴重な経験をお楽しみいただきたいと考えております。

そして、日本映画をけん引する映画監督である三島有紀子さんにアンバサダーを委嘱し、30回目の映画祭を一層盛り上げていただきます。

映画という親しみやすい素材を通して、女性の活躍促進や男女共同参画意識の理解を深めていただける充実したプログラムになっています。皆様のご来場をお待ちしています！

公益財団法人 あいち男女共同参画財団

概要

1 日程

2025年9月11日(木)から9月15日(月・祝)

2 会場

○ウィルあいち(名古屋市東区)

○ミッドランドスクエア シネマ(名古屋市中村区)

3 上映作品 <全42作品>

○招待作品等 24作品

世界初公開2作品、日本初公開5作品

愛知初公開7作品など

○フィルム・コンペティション18作品(内、招待3作品)

4 チケット情報

前売1,000円 当日1,300円 ほか



30回記念特別企画の実施

古い歴史を持つ「クレティユ国際女性映画祭(フランス)」と世界最大級の国際女性映画祭である「ソウル国際女性映画祭(韓国)」で上映された作品を日本初公開します。上映後は、各映画祭からゲストをお招きして、国際シンポジウム「わたしたちの今」を開催する他、「女性監督の先駆者たち」と題して、フランス、韓国、日本の女性監督の先駆者たちの作品を上映するなど見どころ満載です。

国際色豊かなゲストトークの開催

作品上映後、女性監督等をお招きしてトークイベントを実施します。韓国からは俳優のキム・ヒャンギさん、トルコからは俳優のナザン・ケサルさん、国内からは俳優の菜葉菜さん、藤田朋子さん、エッセイストの安藤和津さんらをゲストにお迎えしてのトークイベントや、三島有紀子監督の作品「繕い裁つ人」に出演された中谷美紀さんからのビデオメッセージをお届けします。

旅る愛知
Tabirol Aichi

<https://aichi-platform.com/>
映画祭とのコラボ企画はコチラ⇒



映画祭のお問合せ

あいち国際女性映画祭事務局

電話 052-962-2520 FAX 052-962-2477

9:00~17:00(映画祭開催中は20:30まで)

休業日：月曜日(祝日の場合は翌日も休業)・祝日 <https://www.aiwff.com>



News & Information

1

内閣府

理系で広がる私の未来2025 動画公開セミナー

内閣府・文部科学省・科学技術振興機構(JST)・経済産業省は、女子中高生等の理工系分野への進路選択を応援する取組の一環として、2017年より中高生や保護者の皆さんに「理系選択の未来」を知っていただくためのシンポジウムを企画・実施しています。

今年度は昨年度に引き続き、「進路で人生どう変わる? 理系で広がる私の未来2025動画公開セミナー」としてメッセージ動画を公開しました。動画では、理系分野で活躍する6名の講師の方から、自身の進路選択の経験や、現在の仕事内容についてお話しいただき、現在、進路選択に悩んでいる女子中高生の皆さんに向けたメッセージをいただきました。この機会にぜひ理系の素敵な未来をのぞいてみませんか。動画は男女共同参画局公式YouTubeに掲載しており、お好きなタイミングで視聴できます。ぜひご視聴ください!

(画像は、メッセージ動画を提供いただいた6名の講師の方々です。左上から時計回りに、広島大学 田中純子さん、関西学院大学 村上慧さん、パナソニックホールディングス株式会社 竹下未来さん、合志技研工業株式会社 山下さん、日東電工株式会社 北村由羽さん、海洋研究開発機構 永塚尚子さん)



メッセージ動画を提供いただいた6名の講師の方々

詳細は、特設ページをご覧ください。

URL

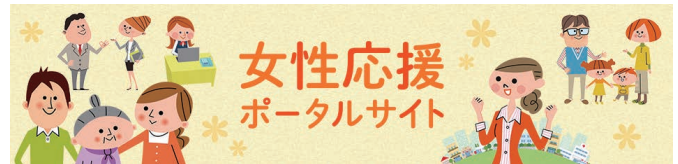
https://www.gender.go.jp/c-challenge/video/seminar_202507.html



2

内閣府

「女性応援ポータルサイト」 令和7年度の施策情報を掲載しました!



令和7年度の施策情報を掲載しました!

内閣府男女共同参画局では、「女性応援ポータルサイト」にて、子育て・介護、仕事、健康など、女性の生活に役立つ政府の支援策やサービス情報を定期的に更新しています。

令和7年度の最新施策情報も掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

なお、当サイトでは女性向けの情報だけでなく、男性、企業、地方自治体向けの情報も掲載しています。ぜひご活用ください。

詳細はこちらをご覧ください。

URL

<https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/ouen/index.html>



3

内閣府

「広げよう! 女性防災ネットワーク」参加者募集!!

防災活動を実践する様々な団体・機関が一同に会し、取組・知見を発信・共有する日本最大級の防災イベント「防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)」。10回目を迎える2025年のぼうさいこくたいでは、「語り合い・支え合い〜新潟からオールジャパンで進める防災・減災〜」をテーマに、9月6・7日 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター(現地・オンラインのハイブリット形式)で開催されます。

内閣府男女共同参画局は、2021年からよんなな防災会女子部等とともにセッションやワークショップを行ってきました。今回は地域の防災活動や災害の現場での女性防災リーダーの活躍促進と全国的なネットワークづくりに向けた取組についてのセッションを9月6日(土)16:30から現地で開催します。申し込み方法は、男女共同参画局HPでお知らせします。地方公共団体等の男女共同参画担当・防災担当部局で働く職員、地域の防災リーダー、防災士、「男女共同参画の視点からの防災」に関心のある方など、たくさんの方々のご参加をお待ちしています!

詳細はこちらをご覧ください。

URL

<https://www.gender.go.jp/policy/saigai/index.html>



「ぼうさいこくたい2025 in新潟」にNWEC出展！

国立女性教育会館(NWEC)は、9月6日(土)～7日(日)に新潟県で開催される日本最大級の防災イベント「ぼうさいこくたい」に出展します。

DE&Iが注目されている現在、防災対策・被災者支援にもジェンダー視点が不可欠です。そこで、NWECは、全国女性会館協議会、TEAM防災ジャパンと連携して「ジェンダー視点の被災者支援の意義と実際」をテーマに多彩なパネリスト、コメンテーターによるパネルディスカッションを行い、地域の男女共同参画センターに求められる役割や平時の備えについて考えます。ぜひご参加ください。



昨年度の熊本開催の様子

詳細は、こちらをご覧ください。

URL <https://www.nwec.go.jp/event/event/bousaikokutai2025.html>



両立支援等助成金(育休中等業務代替支援コース)のご案内

両立支援等助成金(育休中等業務代替支援コース)は育児休業を取得した労働者や育児のため短時間勤務制度を利用した労働者が行っていた業務について、周囲の労働者に手当等を支払って代替させた場合や、育児休業を取得した労働者が行っていた業務を代替する労働者を新規に雇い入れた(新規の派遣受入れを含む)場合に利用できます(中小企業事業主が対象)。労働者が職場へ気兼ねなく育休を取得できるよう、ぜひ本助成金をご活用ください。

2025(令和7)年度 両立支援等助成金のご案内

まわりに気兼ねなく育休を取得できるように

育休中等業務代替支援コース

育児休業取得者や短時間勤務者の業務を代わりに行う労働者に手当を支給、または代替要員を新規雇用(または派遣で受入)した場合に受給できる助成金です。



種別	要件	支給額(※)
① 手当支給等(育児休業)	育児休業取得者の業務代替者に手当を支給	最大140万円(A+B) うち最大30万円を先行支給! A 業務体制整備費: 最大20万円 B 業務代替手当: 最大120万円(手当支給総額の3/4)
② 手当支給等(短時間勤務)	短時間勤務者の業務代替者に手当を支給	最大128万円(A+B) うち最大23万円を先行支給! A 業務体制整備費: 最大20万円 B 業務代替手当: 最大108万円(手当支給総額の3/4)
③ 新規雇用(育児休業)	育児取得者の業務代替要員を新規雇用または派遣で受入	最大67.5万円(代替期間に応じた額を支給) ○最長(7日以上14日未満): 9万円 ○最長(6か月以上): 67.5万円

おもな要件



① 手当支給等(育児休業)

- 代替業務の見直し・効率化の取組の実施
- 業務を代替する労働者への手当制度等を就業規則等に規定
- 対象労働者が7日以上育児休業を取得し、復帰後も支給申請日まで継続雇用
- 業務を代替する労働者への手当支給等(支給した手当額に応じ、助成金支給額が変動)

② 手当支給等(短時間勤務)

- 代替業務の見直し・効率化の取組の実施
- 業務を代替する労働者への手当制度等を就業規則等に規定
- 対象労働者が短時間勤務制度を1か月以上利用し、支給申請日まで継続雇用
- 業務を代替する労働者への手当支給等(支給した手当額に応じ、助成金支給額が変動)

③ 新規雇用(育児休業)

- 育児休業を取得する労働者の代替要員を新規雇用または派遣受入で確保
- 対象労働者が7日以上育児休業を取得し、復帰後も支給申請日まで継続雇用
- 代替要員が育児休業中に業務を代替(業務を代替した期間に応じ、助成金支給額が変動)

(※)①～③全て合わせて1年度10人まで、初回から5年間支給。その他要件あり。

両立支援等助成金の申請方法などはこちら

URL https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/shokuba_kosodate/ryouritsuzai/index.html



公式Facebook

男女共同参画局 Facebook
<https://www.facebook.com/danjokyodosankaku>



公式X

男女共同参画局X
<https://x.com/danjokyoku>



公式ホームページ

内閣府男女共同参画局
Gender Equality Bureau Cabinet Office
<https://www.gender.go.jp>



Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」8月号

第191号
編集・発行

2025年8月12日発行
内閣府
〒100-8914
東京都千代田区
永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局
総務課
03-5253-2111 (代)
株式会社丸井工文社
株式会社三栄広告社
株式会社創芸社

電話
印刷
表紙デザイン

せいはんざい ひがい そうだん でんわ
性犯罪被害相談電話

シャープ ハートさん
#8103

(発信場所を管轄する都道府県警察の性犯罪被害相談電話につながります。)



犯罪被害者等支援
シンボルマーク
「ギョッとちゃん」

- 性別・年齢にかかわらず相談できます。匿名での相談も可能です。 ●秘密は守ります。
- 緊急を要する場合は、110番通報をお願いします。 ●土日・祝日及び執務時間外は、当直で対応します。
- IP電話から「#8103」に発信すると、通話料が発生する場合やつながらない場合がありますので、各都道府県警察の性犯罪被害相談電話窓口に直接おかけください。



警察庁
National Police Agency

各都道府県警察の
性犯罪被害相談電話
窓口はこちら →



性犯罪・性暴力で悩んでいる方へ【全国共通番号】
内閣府 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター

はやくワンストップ
#8891



性暴力に関する SNS 相談
内閣府 Cure time (キュアタイム)

